

詩

桜の花びら

新座市立東野小3年

山田 結愛 9才

春風のいたずらで美しい桜が私の顔

にはりついた。

桜の甘い香りが私をくすぐった。

その花びらは宝物入れにそっと入れた。

今でも大切にしまっている。

その花びらを見るとあのときの思い出が

よみがえる。

令和8年5月24日 読売新聞ジュニア文芸掲載